

2022年2月期 第2四半期 (2021年3月1日～2021年8月31日)

# 決算説明資料



©2021「劇場版 呪術廻戦 0」製作委員会 ©芥見下々/集英社

2021年10月12日(火)



# 2022年2月期 第2四半期 営業概況

	2021年2月期 (2020年3月～8月)	2022年2月期 (2021年3月～8月)	前期比	増減率
営業収入	73,991百万円	118,050 <b>百万円</b>	44,058百万円	59.5%
営業利益	7,098百万円	21,463 <b>百万円</b>	14,364百万円	202.4%
経常利益	7,897百万円	22,752 <b>百万円</b>	14,854百万円	188.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,795百万円	15,081 <b>百万円</b>	11,285百万円	297.3%

# 2022年2月期 第2四半期 営業概況

## 【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、軽微になりつつはあるものの、当第2四半期においても継続しております。

映画事業においては、3度目の緊急事態宣言発出を受けて、大阪府下のTOHOシネマズ5サイトにおいて6月の土日（6日間）が、臨時休業となりました。また、7月12日からの4度目の緊急事態宣言発出を受けて、宣言対象地域以外のまん延防止等重点措置該当地区においても、営業時間短縮、アルコール類の時短販売、販売座席数の制限等の感染防止対策を施しながら営業活動を続けました。

演劇事業においても、一部公演を中止した演目が発生しました。

また、日比谷シャンテ（商業施設）においても、時短営業やアルコール類の提供自粛を実施しました。

## 【第2四半期決算の概況】

映画営業事業において、当社配給の7月16日公開『竜とそばかすの姫』、8月6日公開『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールドヒーローズ ミッション』、東宝東和配給の8月6日公開『ワイルド・スピード/ジェットブレイク』の大ヒットがあり、大幅な増収増益。

映画興行事業において、時短営業や座席販売の制限等による興行収入の伸び悩みがあったものの、上記東宝グループ配給作品に加え、他社配給作品の健闘によって、赤字だった前年同期に比べ増収増益。

映像事業において、「呪術廻戦」「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」「僕のヒーローアカデミア」等の「TOHO animation」作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、配信等の多面的展開により、第1四半期に続き業績を大きく牽引。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、大幅な増収増益を達成。

演劇事業では、期間中の公演の一部中止や払い戻しはあったものの、前年同期に比べ公演数の増加により、大幅な増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において、保有物件の一時的なテナント入れ替えによる減収があり、不動産保守・管理事業において、コストコントロールに努め増収増益となったものの、全体としては減収減益。

なお、劇場や商業施設等の臨時休業期間中の人件費・借家料・減価償却費等ならびに中止した演劇公演に係る製作費等を「臨時休業による損失」として特別損失に、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金及び国や地方自治体等からの助成金等を「助成金収入」として特別利益に計上しております。

# セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2021年2月期 (2020年3月～8月)	2022年2月期 (2021年3月～8月)	増減率	2021年2月期 (2020年3月～8月)	2022年2月期 (2021年3月～8月)	増減率
<b>映画事業</b>	37,924	77,713	104.9%	947	13,622	1337.3%
映画営業	12,032	22,649	88.2%	2,935	5,433	85.1%
映画興行	12,269	28,902	135.6%	3,800	1,204	-
映像事業	13,623	26,161	92.0%	1,813	6,984	285.2%
<b>演劇事業</b>	2,069	6,576	217.7%	1,146	1,147	-
<b>不動産事業</b>	32,874	32,482	-1.2%	9,315	8,667	-7.0%
不動産賃貸	14,080	13,470	-4.3%	6,483	5,884	-9.2%
道路事業	14,074	14,174	0.7%	2,567	2,307	-10.1%
不動産保守・管理	4,719	4,836	2.5%	264	475	79.6%
<b>その他事業</b>	1,121	1,277	13.9%	194	101	-

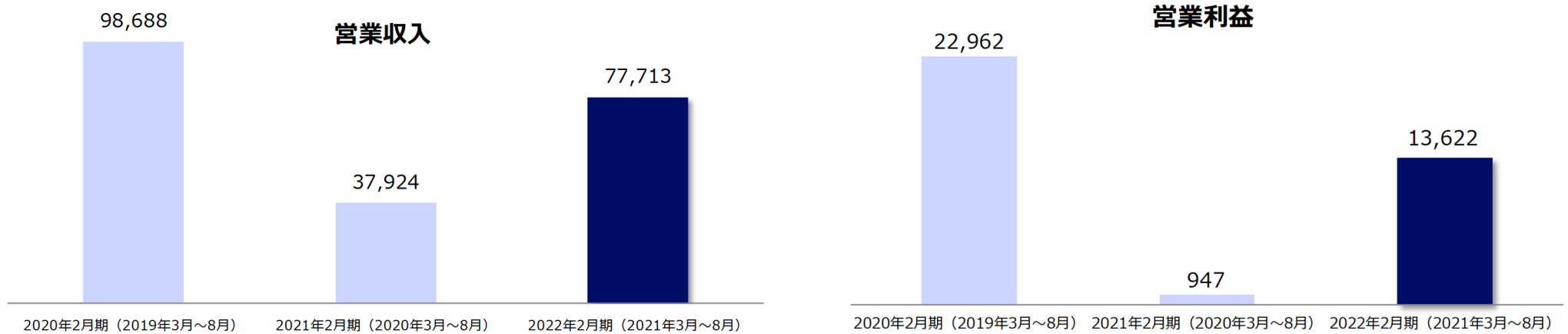
(単位:百万円)

# セグメント別業績（四半期別）

	営業収入		営業利益	
	第1四半期 (2021年3月～5月)	第2四半期 (2021年6月～8月)	第1四半期 (2021年3月～5月)	第2四半期 (2021年6月～8月)
<b>映画事業</b>	37,682	40,031	6,079	7,543
映画営業	12,321	10,328	2,702	2,731
映画興行	12,879	16,023	295	909
映像事業	12,481	13,680	3,082	3,902
<b>演劇事業</b>	2,884	3,692	483	664
<b>不動産事業</b>	16,604	15,878	4,922	3,745
不動産賃貸	6,725	6,745	3,136	2,748
道路事業	7,471	6,703	1,570	737
不動産保守・管理	2,407	2,429	215	260
<b>その他事業</b>	636	641	39	62
合計	57,808	60,242	10,518	10,945

(単位:百万円)

# セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

## 業績分析（増減要因）

- 映画営業事業では、第1四半期から公開延期となっていた『ゴジラvsキング』（興行収入18.8億円）、『映画クレヨンしんちゃん 謎メキ！ 花の天カス学園』（同17.0億円）に加え、新作『竜とそばかすの姫』（同63.0億円）、当社幹事作品『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション』（同32.1億円）と多くの作品がヒット。また、東宝東和株『ワイルド・スピード/ジェットブレイク』（同36.2億円）が今年公開の洋画で初となる興行収入30億円突破のヒットとなるなど、大幅な増収増益。
- 映画興行事業では、緊急事態宣言発出をうけ、大阪府下のTOHOシネマズ5サイトにおいて6月の土日（6日間）の臨時休業や、それ以外のエリアにおいても時短営業・座席販売の制限・アルコール提供の自粛等の厳しい状況は続いたが、上記東宝グループ配給作品や、他社配給作品の堅調な稼働により、増収増益。
- 映像事業では、パッケージ事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」のセールスが好調。アニメ制作事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」等の商品化権収入が大きく伸長。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション』が好調だった他、「TOHO animation STORE」（ECサイト）における「呪術廻戦」の関連商品販売が増加。映像事業全体として大幅な増収増益。

(興行収入は2021年9月末時点)

# 当第2四半期の主要稼働作品状況等

## 東宝(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
竜とそばかすの姫	7月16日	63.0
僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション	8月6日	32.1
ゴジラvsコング	7月2日	18.8
映画クレヨンしんちゃん 謎メキ！ 花の天カス学園	7月30日	17.0
キャラクター	6月11日	15.8

## 東宝東和(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
ワイルド・スピード/ジェットブレイク	8月6日	36.2

# 当第2四半期におけるTOHOシネマズの営業状況

## 【臨時休業】

所在地	サイト数	期間
大阪府	5	6月4日、5日、12日、13日、19日、20日

## 【時短営業】

所在地	サイト数	期間
東京都 千葉県 神奈川県 京都府 大阪府 兵庫県	31	6月1日～8月31日
熊本県	2	6月1日～6月13日、8月8日～8月31日
岡山県 広島県	2	6月1日～6月20日、8月20日～8月31日
愛知県	4	6月1日～7月2日、8月8日～8月31日
北海道	1	6月1日～7月11日、8月30日～8月31日
福岡県	3	6月1日～7月11日、8月2日～8月31日
埼玉県	1	7月20日～8月31日
茨城県 栃木県 静岡県	2	8月8日～8月31日
宮城県 岐阜県 富山県 鹿児島県	3	8月20日～8月31日
長崎県	1	8月28日～8月31日



# 当第2四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2021年(133期)	2020年(132期)	前年比
3月	10,122,378,904	1,202,249,004	842.0%
4月	8,940,877,900	138,867,250	6438.4%
5月	3,087,028,450	68,957,350	4476.7%
1Q	22,150,285,254	1,410,073,604	1570.9%
6月	2,990,184,400	704,847,150	424.2%
7月	6,968,430,230	5,524,371,150	126.1%
8月	7,645,189,650	8,938,505,850	85.5%
2Q	17,603,804,280	15,167,724,150	116.1%
上期計	39,754,089,534	16,577,797,754	239.8%

東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

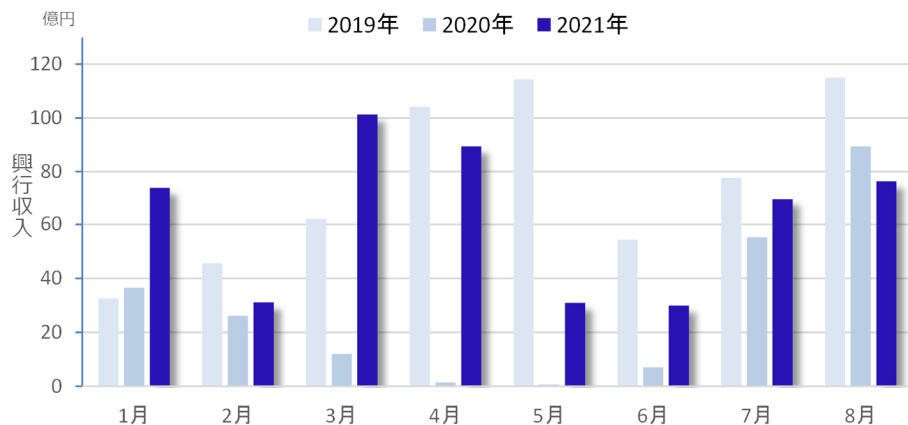
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

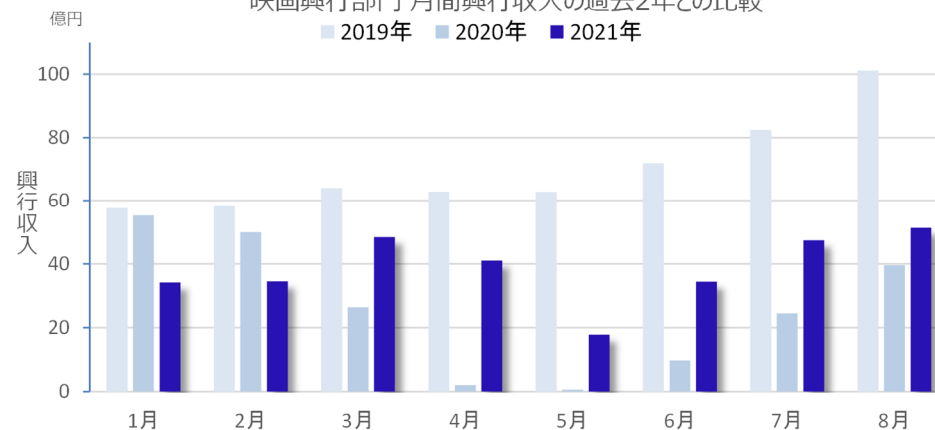
	2021年(133期)	2020年(132期)	前年比
3月	4,842,139,643	2,637,484,812	183.6%
4月	4,099,777,614	197,832,004	2072.4%
5月	1,775,416,231	59,131,870	3002.5%
1Q	10,717,333,488	2,894,448,686	370.3%
6月	3,440,625,871	972,494,252	353.8%
7月	4,741,518,384	2,447,555,473	193.7%
8月	5,130,905,686	3,955,265,644	129.7%
2Q	13,313,049,941	7,375,315,369	180.5%
上期計	24,030,383,429	10,269,764,055	234.0%

全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入(東宝配給作品を含む)

映画営業部門 月間興行収入の過去2年との比較



映画興行部門 月間興行収入の過去2年との比較





## 「ウマ娘 プリティーダービー Season 2」

(「ウマ箱2」アニメ第2期のBlu-ray BOX商品)

- 第1コーナー 2021年5月26日発売
- 第2コーナー 2021年6月23日発売
- 第3コーナー 2021年7月21日発売
- 第4コーナー 2021年8月18日発売

(TVアニメ)

- Season 1 2018年4月から6月放送
- Season 2 2021年1月から3月放送



## 『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールドヒーローズ ミッション』

2014年7月「週刊少年ジャンプ」連載開始  
シリーズ世界累計発行部数 5,000万部突破 (7月1日時点)

最新作 2021年 8月6日公開 興行収入32.1億円  
(2021年9月末現在)  
10月から香港を皮切りに海外でも順次劇場公開予定

- 1作目 2018年 8月3日公開 興行収入17.2億円
- 2作目 2019年12月20日公開 興行収入17.9億円



## 『劇場版 呪術廻戦 0』

待望の映画化、2021年12月24日公開

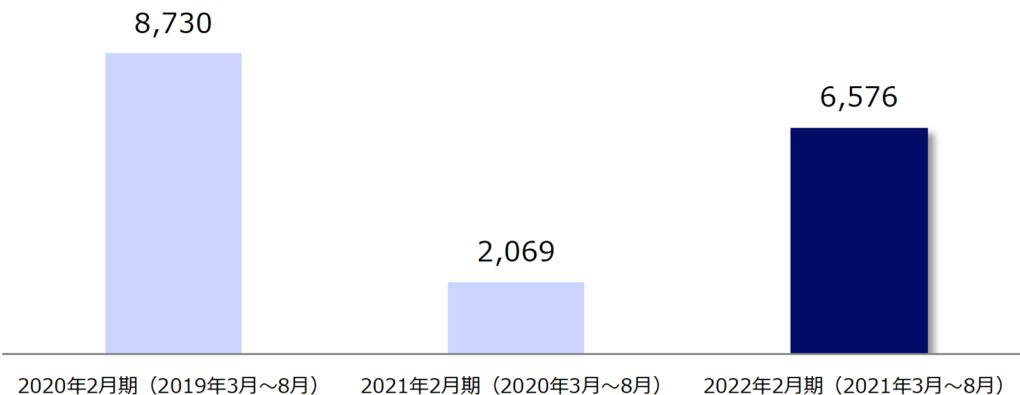
2018年3月「週刊少年ジャンプ」連載開始  
シリーズ累計発行部数 5,500万部突破 (10月4日時点)

(TVアニメ)  
2020年10月から2021年3月放送  
金曜深夜「スーパーアニメイズム」枠史上、  
平均世帯視聴率歴代1位

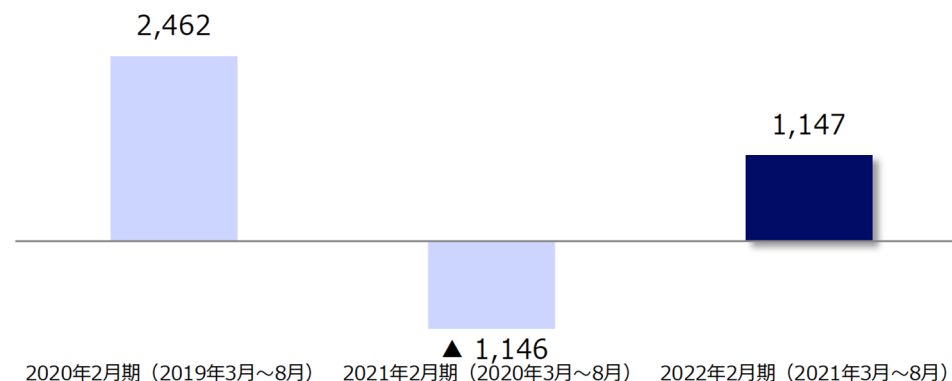
国内の主要配信プラットフォームで視聴者数1位を多数  
獲得し、世界100以上の国と地域でも配信・放送され  
人気を誇る

# セグメント別業績【演劇事業】

## 営業収入



## 営業利益



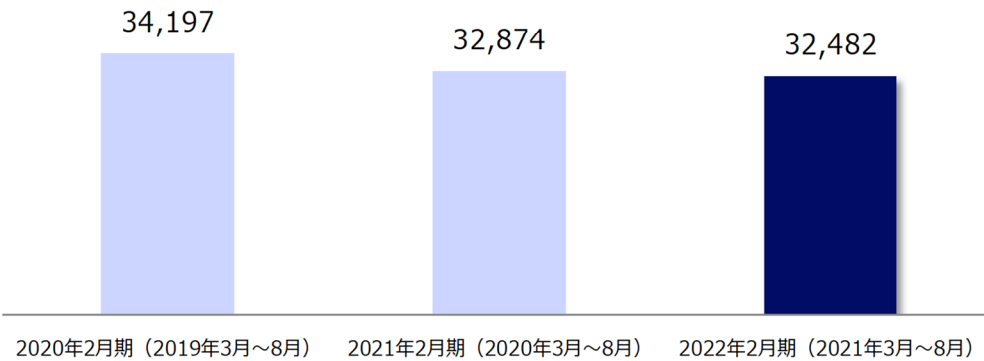
(単位：百万円)

## 業績分析（増減要因）

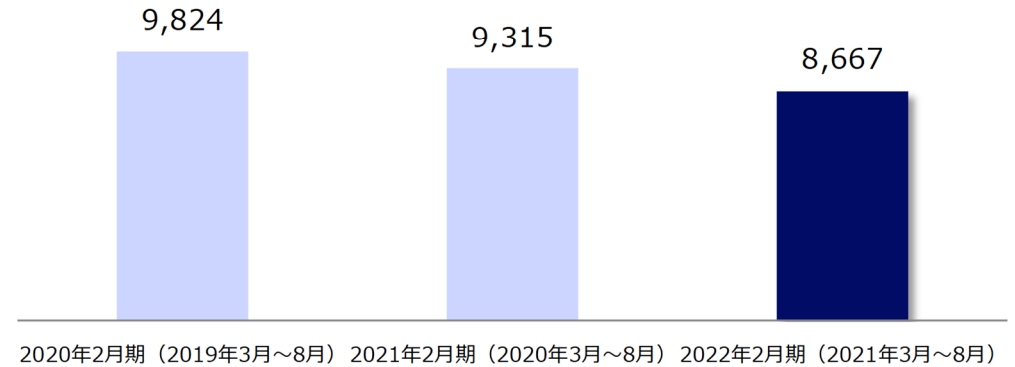
- 帝国劇場では、『レ・ミゼラブル』（5月～7月公演）、『王家の紋章』（8月公演）を、シアタークリエでは『CLUB SEVEN ZERO』（6月公演）、『SHOW BOY』（7月公演）、『逃げるは恥だが役に立つ』（8月公演）等を劇場の消毒や換気の強化等の感染予防策を講じながら公演を実施。
- 外部公演では、TBS赤坂ACTシアターにおいて『ロミオ&ジュリエット』（5月～6月公演）、東京建物 Brillia HALLにおいて『マタ・ハリ』（6月公演）を上演し、堅調に稼働。  
一方で、新型コロナウイルス感染拡大による『レ・ミゼラブル』全国ツアー公演の博多座（8月公演）や、『エニシング・ゴーズ』の明治座（8月公演）および4大都市公演の全公演が中止となる等、厳しい状況は継続。
- 演劇事業としては、チケットの払い戻し・チケット販売の制限に加えて、外部公演での一部公演中止となった演目はあるものの、特に直営劇場において前年同期より多くの公演数を実施することができたため、大幅な増収増益を確保。

# セグメント別業績【不動産事業】

## 営業収入



## 営業利益



(単位：百万円)

## 業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、保有する物件の一時的なテナントの入れ替えや、入居テナントに対しても賃料減額の措置を講じたこと等もあり、減収減益。
- 道路事業では、防災・減災対策や老朽化するインフラ整備をはじめとする公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めた結果、増収となるも減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、ホテルや劇場等の商業施設の経済活動が再開し、受注回復の動きは鈍いものの、コストコントロールに努めた結果、増収増益。

# 業績・配当予想

## ■ 2022年2月期連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

最近の業績の動向等を踏まえ、2021年7月13日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
前回発表予想（A）	214,000	32,000	33,500	20,500	115.39
今回修正予想（B）	226,000	38,000	40,000	26,000	146.83
増減額（B-A）	12,000	6,000	6,500	5,500	
前回発表増減率（％）	5.6％	18.8％	19.4％	26.8％	
（ご参考） 2021年2月期実績	191,948	22,447	24,195	14,688	82.54

## ■ 配当予想

	第1四半期末 円 銭	第2四半期末 円 銭	第3四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭
2022年2月期(実績)		17.50			
2022年2月期(予想)				17.50	35.00
（ご参考） 2021年2月期実績		17.50		17.50	35.00

直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。  
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ  
東宝株式会社 総務部 広報・IR室  
TEL 03-3591-1303